

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 地域健康増進学教育研究分野 氏名 横山 順一
指導教授氏名	井原 一成
論文審査担当者	主 査 富田 泰史 副 査 皆川 正仁 副 査 今泉 忠淳
(論文題目) 脂質代謝が大動脈の動脈硬化指標に及ぼす影響に関するコホート研究 : 岩木健康増進プロジェクトでの検討 (The effect of lipid metabolism on arteriosclerosis indices: a cohort study from the Iwaki Health Promotion Project)	
(論文審査の要旨) 健康寿命の延伸に向けた動脈硬化性疾患の予防は、社会的に重要な課題である。本研究では、動脈硬化の指標である baPWV (brachial ankle pulse wave velocity) ならびに ABI (ankle brachial index) と脂質代謝との関係を、一般住民の 10 年間の追跡調査により検討した。対象は、岩木健康増進プロジェクトに 10 年の間隔 (2005 年と 2015 年、2006 年と 2016 年、2007 年と 2017 年、2008 年と 2018 年) で 2 回参加し、血清脂質ならびに baPWV、ABI が測定された 20 歳以上の 447 名 (男性 162 名、女性 285 名) である。男女別ならびに年代別に 2 群 (60 歳未満と 60 歳以上) に分け、baPWV、ABI と血清脂質値との関連性を検討した。 重回帰分析では、男女とも各年代ともに、10 年間ににおける baPWV 変化量と血清脂質値の変化量との間に有意な関係を認めなかった。60 歳未満の男性では、ABI の変化量と LDL-C ならびに HDL-C の各変化量との間に負の相関を認め、60 歳未満の女性でも、ABI の変化量と LDL-C の変化量との間に負の相関を認めた。一方、60 歳以上では男女ともこのような関係を認めなかった。次に 10 年後の baPWV、ABI に及ぼす登録時血清脂質値の影響をロジスティック回帰分析により検討した。男女とも各年代ともに、10 年後の baPWV と血清脂質値との間に関連性を認めなかった。10 年後の ABI については、60 歳未満の男性では登録時 LDL-C 高値群で有意に高いオッズ比であった。以上から、男女とも 60 歳未満の年代群で、高い LDL-C による動脈硬化促進作用が示唆された。 本研究は、動脈硬化疾患予防の上で、比較的若年期からの脂質代謝管理の重要性を示唆しており、予防医学の観点からも十分に意義深く、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌 2022 in press

※論文題目が英文の場合は () 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は 900 字程度で本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～「学位授与に値する。」と記入する。